

「小さな親切」運動本部賞

第一四八回入学生へ

大分県 春日町小学校 六年
月村 天紀

ぼくは毎朝、7時前に学校に行ってジョギングをすることを日課としています。

令和4年4月13日、今日もぼくはいつも通りにジョギングをしに学校へ向かいました。今日は入学式で臨時休校だったので、いつもより長くトレーニングできるなど思いながら正門を通りました。

正門の周りには、街路樹の落ち葉がたくさんたまっていました。コンクリートの部分が見えないほど、落ち葉のじゅうたんになっていました。掃除当番がちゃんと掃除したのかな、と疑うぐらいでした。

ぼくはジョギングをしに、グラウンドの方へ向かいましたが、何だか心の中がモヤモヤしてきました。今日は入学式で、新しい1年生やお父さん、お母さんたちがやってくるのに、学校の顔となる正門が落ち葉だらけでいいのかな？ ワクワクしながら学校に来る1年生ががっかりしないかな？ 帰ってしまったりしないかな？ などと考えていると、走っていた足が止まってしまいました。

そして、ぼくはすぐに教頭先生のところに行って、竹ぼうきとちりとりを貸してもらいました。それから正門へ走って向かい、茶色や黄色い落ち葉を一カ所に集め始めました。次第に灰色のコンクリートが見えてくると、小学校の正門が今まで以上に堂々とした立派な門に見えてきました。正門だけではなく、1年生のくつ箱までの道もきれいになりました。

力いっぱい竹ぼうきをにぎって掃除していたので、両手にマメができて、左手の親指の付け根に水ぶくれができていたけれど、痛くありませんでした。40分くらい一人で掃除しました。落ち葉が一枚もないピカピカの正門になり、先生たちはおどろいていました。

そのあと、ぼくがこっそり学校へ行ってみると、新1年生が正門で写真をとっていました。とってもうれしそうな満面の笑顔でした。ぼくは心の中でガッツポーズをしました。きっと1年生は明日も喜んで学校に来てくれるだろうな、最高学年となったぼくは、しっかりしなくちゃいけないなと思いました。

家に帰って、ぼくは自分の入学式の写真を見ました。ぼくとお母さんが正門で笑っていて、よく見ると、このときの正門も落ち葉がほとんどありませんでした。きっと、ぼくたちのために誰かが正門を掃除してくれたのです。ぼくみたいに手にマメをつくりながら、一年生のことを思って掃除してくれた人がいたのです。その人のおかげで、ぼくは笑って写真をとってもらい、今こうやって楽しく学校に通えていることを本当に感謝しています。

これまで一四八回も行われた入学式、その一回一回に誰かが正門を掃除して、入学生をむかえ入れてくれたのです。こうやってつないできた小学校の歴史や伝統の重みを感じ、今通えていることに、あたりまえではなく感謝の気持ちを持ち続けたいと思いました。